

ぽぽじろーだより

地域医療連携をサポートする

HMネット に参加しましょう!

ひろしま医療情報ネットワーク（HMネット）は広島県と広島県医師会が構築し運営を行っているICTを利用した医療連携ネットワークです。患者の診療情報や調剤情報を医療機関で共有することにより適切で切れ目のない医療や介護の提供をサポートします。

AI胸部X線画像診断支援システムの運用開始について

HMネットでは令和6年11月13日(水)より呉市医師会の先生と、有用性について検証をお願いした佐伯地区医師会の一部の先生を対象に、AI胸部X線画像診断支援システムの試験運用を実施しました。試験運用の実績を踏まえて、令和7年3月3日(月)から県内のHMネットに参加されている医療機関のHMネットユーザIDをお持ちの先生方全てが利用できるように致しました。

試験運用にご協力をいただきました先生方に感想等をお伺いしました。

みつの内科消化器科クリニック 光野 雄三 先生

HMネットで試験運用されたAI胸部X線画像診断支援システムを利用しました。胸部X線画像を読影する度に感じていた所見の指摘や見逃しに対する心理的不安が軽減され、「ほっとした」というのが一番正直な感想です。自院で初めて胸部X線検査をする患者さんでは経年的な比較ができないため、AI診断はより有用でした。また、確認が難しい肋骨や鎖骨、心血管陰影に重なった陰影もAIに指摘され、精査することが出来ました。診察室でX線画像について説明する際にAI画像も併せて説明することで患者さんもより安心される印象です。現在のシステムでは結節や腫瘤影、浸潤影、気胸以外の間質影などについては指摘されませんが、開業医での健診を含めた日常臨床では十分有用であると感じました。

不便なところは画像をUSBメモリに保存後、USBメモリをHMネット接続端末に付け替える必要があり、診療中にこの作業を行うことに負担を感じました。

マイナンバーカードを利用した情報提供が進んでいく中、HMネットの利用継続について最近では迷いが生じていました。しかし今回運用が開始されるAIシステムにより診断の向上と心理的不安の軽減効果を感じたため、HMネットを今後も継続することにしました。

廿日市市吉和診療所 吉川 仁 先生

診療所にとって、追加料金なく胸写のAIが使えるのはありがたい限りです。気胸、結節影、浸潤影の有無と確からしさがスコア化、図示されます。読影には数秒しかかかりません。70代男性が食事中ひどくむせたというので胸写を撮りAI読影。左上葉の1cm大の淡い浸潤影に印がつき、スコア69点。1か月後再撮影。3mm大に縮小していましたがちゃんと印はつき、スコア29点。私の眼だと間違いなく見落とすと思います。AIの併用で、肺がん検診目的の年1回の胸写（多くの医療機関で行っていると察します）における「うっかり見落とし」は激減するでしょう。ただ、スコアが微妙なことが多々あります。問題ない（lowと示される）と判定されることのほうが少ないです。微妙な所見全てをCT撮影することは考えにくく、数年前の画像と比較読影し悩みます。

県内には、自治体による個別肺がん検診が行われている市町もありますが、AIを併用しても、現時点では、主に過剰診断を防ぐため、人によるダブルチェックはまだ必要だと思います。ただ、それでもAIを使う意味は十分あると思います。なお、AIには画像の質を評価する機能はなく、良質な画像を撮影する必要性がさらに高まることも間違いありません。

HMネット参加医療機関はぜひ、本システムをご利用いただきたくお願いいたします。また未参加の医療機関におかれましてはこれを機にHMネットへの参加のご検討をよろしくお願いいたします。

TEL : 082-568-1511 FAX : 082-568-2112 E-mail : hm-net@hiroshima.med.or.jp

所属医療機関	
ご担当者名	
連絡先	〒 (TEL : - -)